

京都文藝復興倶楽部 2014年度総会 挨拶

2014年6月28日（土曜日）

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

京都造形芸術大学を設置する学校法人瓜生山学園には、現在3歳から94歳まで、10000名を超える人びとが学習しています。3歳は、こども芸術大学の幼児であり、94歳は、京都造形芸術大学通信教育部の学生です。そして、この学園の学生たちも、教職員も、また役員たちも、たいへん元気に活動しています。

この京都文藝復興倶楽部は、学校法人瓜生山学園の創立者である徳山詳直理事長の、学園を創設するに当たっての言葉を書き留めた「京都文藝復興」という文章のタイトルに由来しています。毎年、京都造形芸術大学の入学式の冒頭に、この「京都文藝復興」の全文が、松平定知教授によって力強く朗読されます。教職員も、この「京都文藝復興」の理念を理解し、同じ思いを持つという基盤に立って活動します。

京都造形芸術大学を中心として、2002年1月、文化と芸術を通して京都の産業のさらなる活性化をめざし、産業界、諸団体、自治体、国、学界などが、相互に交流するための組織として発足したのが、今日の総会を開催する、この「京都文藝復興倶楽部」であります。

京都は、百万年の歴史を持つ活断層盆地に生まれ、1300年に及ぶ悠久の歴史を持つ世界有数の大都市です。そこには長期間日本の国の都が置かれ、しかも現在もなお最先端の科学と技術と、世界に誇る伝統と文化を待つ、そのような大都市であります。都でありながらその周囲に城壁を持たないという、世界的に珍しい都市の形態があり、盆地の中には40を超える大学があって、多くの学生たちがそれらの大学の間を自転車で往来できるという大きな特長を持つ都市でもあります。

活断層運動によって形成された分厚い京都盆地の堆積層には、豊かで良質の地下水が蓄えられており、都の歴史の中で、その地下水をもとに、茶の湯が生まれ、湯葉や豆腐、美味しい和菓子や酒が生み出され、それらを生かした京料理が育まれ、それらを中心としてさまざまな伝統工芸や文化が輝いてきました。

時代の流れとともに、この「京都文藝復興倶楽部」設立の趣意書も、そろそろ新しくしてもいいのではないかと私は考えています。今日はそのような観点からもご意見を活発に交換していただけるとありがたく存じます。

古都京都の伝統の中で、若い学生の力を活かし、企業や大学が蓄積する知財を活用し、それらと歴史を背景とする各界の活力との連携によって、京都の産業界が未来へ向かう新しい道を見いだすような活動につながることを願って、今日の総会の私のご挨拶といたします。

ありがとうございました。